

一般質問

6月定例会



早樋 徹雄 議員

Q 飯南高校 記念の森を

飯南高校のテニスコートが平成28年度に整備された。広範囲に周辺を伐採し、現在では国道から校舎が望めるようになった。高校の環境整備に協力していただいた山林所有者の方々には、お礼を申し上げる。町長は、3月定例会の一般質問において、「飯南高校の存続は飯南町の浮沈に関わる重要課題と位置づけた」と答弁しているが、町長就任以来、町を挙げての飯南高校魅力化は、各方面から高い評価を得ている。

今年の入学者は59名で、町外・県外出身者が半数以上であり、取り組みの成果が出ている。こうした中、山林の一部を町で取得し、「飯南高校記念の森」として卒業の記念植樹などができれば、卒業後、町内外で活躍する人や、この地を離れ大学へ進学する人たちにも、在校生へ進学する人たちにも、在校生の思い出が記憶に残ることになる。それは町にとっても大きな財産になるのではないかと。

A 良いアイデア

町長 山崎 英樹

飯南高校の魅力づくりの取り組みには、多くの皆様の理解と協力を頂いており、お礼を申し上げます。町内生徒が減少する中、県外からの生徒は20名以上在学しており、多くはホストファミリーを利用して生活を行い、飯南町に愛着を持って帰ってきている。

飯南高校を卒業された皆さんには、飯南町を担って欲しいと願っているが、近年は町外・県外出身の生徒もそうした志、意思を持ってくれる人材も現れている。本年度策定する地方創生総合戦略においても、飯南高校との連携は重要だ。

「飯南高校記念の森」は、飯南高校同窓生・ホストファミリー・本町のつながりを確かなものにし、町の大きな財産となる。今後、所有者の意向を聞き、取得・管理体制などを高校卒業生会などと協議し、前向きに検討する。

向野萱から高校周辺を望む



飯南高校の存続は、飯南町の浮沈に関わる重要事項であり、一層取り組みを進めていかなければならない。

一般質問

6月定例会



安部 丘 議員

Q 人手不足への支援は

本町の有効求人倍率は約7倍であるが、新たな人材の獲得は望めない。政府は、打開策として「改正出入国管理法」を施行し、5年間で最大34万人余りの外国人を受入れる。

これまでの緩やかな人材確保施策だけでは、改善は望めないと考える。町内事業者の人手不足に対し、どのような支援をしていく考えか。特に、福祉施設における人材不足は深刻だ。

町内に2施設ある特別養護老人ホームの入所待機者は40名余、すぐにも入所が必要なが数が数名おられる。このような中で、人手不足から受入れ利用者数を縮小せざるを得ない状況にまで至っている。今こそ、町と社会福祉協議会が方向性を示し、老人福祉をリードしていく時だ。



次に、町外に人材を求める場合、課題となるのが住居だ。利便性の高い場所に単身者用アパートを建設し、事業者の住居手配の負担軽減と、町外人材にとって生活し易い環境を整える必要があると思うが、町長の考えを問う。



単身者向けの住宅

A スピード感をもって努力

町長 山崎 英樹

人材確保支援センターや無料職業紹介所を設置し、求人・求職情報の収集・発信・マッチングを積極的に実施し、一定の成果を上げている。更に今年度、外国人雇用も含め、人材確保に必要な経費の一部を助成する人材確保対策支援事業補助金制度を創設した。

将来を見据え、「持続可能な地域社会総合研究所」に委託した「飯南町人口推計及び分析」



析、「地区別介護分析」、「福祉人材の現状と推計」を参考に、飯南町の福祉の未来予想図を描くことが肝要であり、「第二次総合振興計画後期計画」に反映する。福祉施設協議会、社会福祉協議会、地域包括ケア推進局が組織の壁を越えてつながり、総合力を発揮できるよう、町も大いに尽力する。

国で検討されている特定地域づくり事業協同組合制度は、人材不足の解消につながるものと考えており、地域包括ケア推進の上からもしっかりと研究していく。

「医療・福祉を守る」「町内企業・事業所を守る」という観点から、スピード感を持って努力する。また、初期投資を町が助成して、低家賃の民間住宅を事業として成立させたく、財源措置を県知事要望として行っている。



飯南町社会福祉協議会と福祉施設